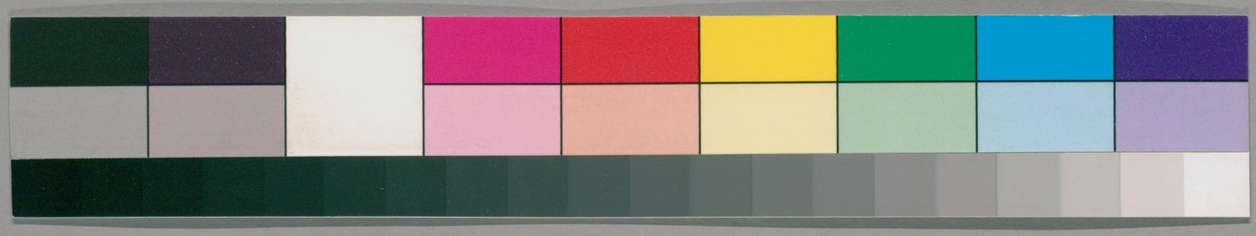


849
55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

地震後世

俗語之種

之後編

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』 請求記号 849-55

ガラス使用

弘化四年
丁未奇談

地震後世俗語之種

芝苅童薪負山賤あるい萬の細
道み牛馬を引戻さうしき山畑を耕
し農夫も其地みまもる其家業おの〳〵
朝まだき嘶く馬み驚て草莚城
腰まもる破籠手まも鎌を携ひ
夕まも青葉ゝ透間よりもる我ゆきの
燈火ゟも稀いつる月かげ怪み立帰り芝

の垣根乃卉花を雪の如く見まがふ頃於て庭裏家毎の手職も任意を偕老同穴の都もおのづこゝに二人の中社樂ひいとも美抱ひて

枕もお疎ましや

友木立

と躊躇ふも

きうくひは号みつく有る里も

849
55
特別

説に曰今年丁未彌生の下旬山稼
ありて有る家に暴風起りて山野に
響き雷鳴しきりともに心もつくしあり
ける所悟〳〵の雷ありて赤き
て其鳴音遠ざかり微かに
なりしかあ後ち有合所の樹木枝葉
かしも不動尚心地悪く動考ふに
已程が額みかもし〳〵贅の髪禿し

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

衣も袖たも気も動く斗りも取もあえず
屋根瓦顛倒之奇異の思ひ城東より
凡人多死其日暮送りける哀か二十
四日の夜大地震我慢して新大災成
受多年の恐怖なりといへり其程を
手寄もと考え問ひけるに善光寺
を中はか取くい雨ふる所也成丈の方ゟ當
る所ゟ山野取ゟけて駭くといふ

凝ふらさい大地震慶安する所の集地
中ゟ満〳〵ても捨たるも有けゟ大
災ゟ後改暦戊申の春を迎ふと
いへとも松城より辰巳
未遍の山續ゟ至り何所とも量〳〵山
野ゟ徹へ鳴音行る事是又陽
逓速の所為ゟ寄須新前代未
聞ゟ大地震を慶安程乃順逆

地ひて地中よりハ不順の氣滿て
萬せきるの後悔あるといへども無學な
故は其詳なる事故言ふ

戌申 晩春折節眼病と脳むと既に半月眼鏡の他の筆
借りて記るせるもの是彼の地震商人又豊田澤店の主と
いへる雅遊業とて書ける世の
人々

麗の
喜源書

水門の曲橋

千曲犀川の大河いまさらなり
ものゝ荒浪と西國にある中の里を東級歌とう
世に川中嶋と唱るも理なり千曲犀の西川
なるまでもなきのといへども犀川の流又此類ある
ぞ洪流ありて嶋なり喜源書
絶えず千廣く船往來
信もまた甚だ仁義禮智
なる人音信の道も絶えず
歌も喜源記

水田の曲橋也又久堅の
流れを二岸川の水と云
落るを百史を架して
外史十五史を架して橋
十五史生行るこの史高
隅音と訛て国浪の
青渕多おし馬ろ
橋未枝葉岩の
の美花映連木實枝
も敬して指を
四ツ時を真書猿の指を
是を廃し
指遣集記事を
よみ人志ある此橋
何格一の橋大地震
摩川の大河也歩も
洗ひ水の高し
数十史増て
保つ再来
亦満たる

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

新地獄の戯言

後世ふ盡奈祢ゑ覧ゑ事も又
重宝二のゝ化 若変化ゑて
ゑゑゑゑ後世話語の種ふ
砂ゑ多ふ備ゑ

我ゑ愚ふしてゑゑゑゑ久老沸師の考ゑ
善光寺ゑゑ多玉江 ゆゑゑて薬山のゑ我の
薬師佛の名命ゑゑ少表名
ゑゑ 又老神生若世ノ人知所之博学ニシテ我先年代幸遊之
交人ニ而其薬山ノ考ハ坊刻ノ文苑玉露ト云書ニ出タリトソ

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

宝永四年善光寺御再建の後頼
所々勧化ものもの
善光寺御堂再建之
棟梁江戸國白子之住人也心祝獅子奉勢
助業ある事の某師堂組造立之四方小圍え
くぐりん堂と言事
遠近ゟ詣人群集
年四月

岩ほ小ゟる事のゝ刀水一
なる御堂ゟ参詣人多
あゝ時ゟ必ず動動ゟて
動りて物ゟ揺ゟる事
御堂ありける報大地震
ゟる程ゟ程ゟ数十ヶ所
岡崎ゟ思惜ゟ
再建の工匠ある事ゟ
山の遠ゟ地ゟ
ゟゟの間ゟ地中ゟ

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

焼薬罐のごまの秘伝
よの世のごもある針乃山みち
渋川の流也と渕あり此
歌面白は浅瀬ゝ
深く通ひ意浅瀬ゝ
ゑ川家の前ゟ意杵
物ゟ苔川の流杵ゟ小児の衣紙洗ひ
ゐりける甚ゟま山家ゟ
ありける也ゟは今ゟも
か衣ゟ有ゟ洗ひ

ゟりし小児ゟ言事の
ゐりける是ゟん
ゟ意ゑ鶴澤の
六道ゟ二ツ
一途ゟ
杵ゟ藤の花
杜ゟ杵ゟ葉ゟ
ゟん
杵ゟ
ゑ

世のうさに迷ふ者の
多きまゝにや蝉の初
地震まで鳴ぬ地
り猶なほ鳴ぬ
是皆勢ひ小水にて牡牛小あ
行ある事と同じ時に猶重なる程の人
笑似寄より無学な愚人抔多き前
誤りて言は深き勢ひにて
ともするもの退屈あり
覧給ふ人々不可笑

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

地の大母震ふ事限考ふるなし傳
爰ゟ水田弘山中梅曲村の名村小城の跡ゟ
東あり民の竈戸潰れ
多き山のいたひも深き澤ゟ澤へ
一丈五余ゟて裂ま
大石あり数百斤四五軒あり此邊
此石動ゐし高き城の跡小麓ゟ
彼の我屋多き処ゟ処へ
転ぶ数百斤ゟ小高き畑に
三年止まる数
人たるも

悔我あるゟ事なし
澤ゟ澤へ裂ま動ゐ
高き麥畑ゟ麓へ悔
文ま引潰れ悔我
不思議ゟ神佛
救護ゟ多くて
止まる所ゟ七五三引
ま尊敬ゟ多くの
豊田酒店の妻主醸の喜源ちゃん

大地震裂して朝日山頂迄落る事の
中ゝ巖のごとくなるいわおありて
物をおおうごとく羅紗に織入れたるもの
類ひせん事なり髪さかだちて
児の髪毛のごとく偉なる
等ゝ毛迄ゝ血のごとく赤みを
もおゝ艶麗ゝいうて甚美なる事まゝ
婦女の甚生物を求渇して地震一頻り
後ゝ人ゝ血走て渇を拯うごとく
物狂たる人ゝ尊ゝ甚容貌和美

拠る未曾有の変災 家毎ゝ人心一日も
安からざるごとく過ぎ去りし光陰矢のごとく
早ゝいつしか行歳となり百事
皆のつゝがなくやゝもすれば
神ならん事ばかりにて
須臾のごとく夜の漸ゝ
添夜もおおふごとく猶乃
死骸の匂ひを慕ひ焼滅
雑あり通路
盗難

ちもうちん行燈小屋の外面行燈見通し又
猶以難渋恐迷強飽行燈改〳〵若悪念有る際
ゟ〳〵早々東雲告る鳥共の声のみ侍まし節
幼解き〳〵安々眠る中に夢うつゝ
誓仮宅小屋掛の有りさま又町並に家の
建連なる事も有る間敷か何向の旅人数千人市町を会釈
なしの通り抜ける遠国を満て来給ふ
有間敷人気の強き日光程
落着〳〵有〳〵侍まし

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

大笑をもよほすの種なり傳へんと始めて繪の生ずる所以なり
筆の運びも行屆きたるは長く
事柄多きも一つも洩れず
大概かたよれる記し振の魅力を
善悪共見せるは絵入文句ばかりの
長文句ばかりも能き加減の書振と一笑して
他人の離合を面白く珍らしき事ども

愛小亦川中嶋其外數しれず何れも田舎乃
村々なれば町家と違ひ凡の家も大かた平屋
頃を打ぬりたる所ゆゑ大地震震し大破損
壊多皆々一歩も外へ出ず地震ゆり直して震ひ
小堰小川等に一切水なし之震ふ事
大抵一ヶ所のみならず其近在我も
犀川の瀬音もあらざるまでに此騒動小雨降ても
雪ける時雨ふるにも瀬唱の音其絶ゆるなき
る事なりと亦恐怖して皆々安眠を
残楽するに極めて漸音のみ聞ゆる事毎日絶ず

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

此大河荒瀬の水乃止まる事多もあり
志の里と云へども瀬音かしく小川乃流迹一切絶たり
何ぞも世よ世と不當晴やし次思案変世に生る
人地も世有多利交の刻迄に比皆志ろよ
能くまかして見るに葉もなかり此川乃
流迹一切絶たる後は此大河何迄へか廻りて押
堂ちらんるとやすかくいへども底井の事有後其
よし見定めるるし何もせよ高きかくよ逃
去るの外小思意かし一早く立退く急ぎ
遁るべしと言へども果ぬ次第まや先人まや

後後しこの事と狂乱の如く狼狽騒くる中
志かりし次男富小松原岡田
函戸城志と同じ引寄る者多く小松原岡田
場所事函振返り見る者多く小松原岡田
北山まで逃のびける折しも明動甚きを後は
地小志後外しして天地鉢し一心ふ乱小念佛
唱ひ時多ひ実地を待まひけるか叶大河を
止もるともいかてか一夜を保つ夏我今まも
水の押来らは家居土蔵多て言も更なりいか
多流大雑地震後世俗語之種しとみだんもまる

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

神もかくてあり給はず震動りけるいつしか
夜も明のくを待兼行住ふかしを人々呉ひて
已まだか村〳〵打見廻りては地震の大破を見
ものれともいはゞ水気をとゝめんとも次第
安堵気をとゝめんとも小児の行程社何まで
打誘まハ足りかる朝夕目馴くまへお持ち我
ゆく浪の大河干揚りて一滴の水だにるやうなし
まつかの少堀小茎茂のとまり夕立の落て
降たるまゝ水のまゝ増りて路次残損の道行
戎脳もるまゝもなりけるかゝる大河乃

何ものにいかゝあまゝは止ずまるまゝ
地割まて流水の世界の底か落入ぬかと
貴賤老若ともはおそろしかりたり〳〵何事も捨まゝたるより外ハ無ものから
かりけ掌折〳〵も時の移りけまとも人と成
たるまゝ昔ハ腹の底重たるも打忘まて
とも幼少の者まゝ其事ひかくるも乃ほしけるも
たゞまゝ海辺より子供見るまゝ親ハ声かづ笑ふ
おいてまゝおりけり〳〵よ話文しまゝ老人
女小児まゝは此所まゝ残しまゝ壮年まして

是れ性質成者多くの乃み村くの如きあん
矛に大切のおもあまた
めしやす味噌との外
持出さんとするいかなるかくする水乃如き押
来りなんまた
してゆくもとくとも
十丁余も半道一里
行て後見まとも
逃ゆる小高き山
廿四日の夜大火焚し
家も見えして狼狽逃去り私氣のめく
苦しく免善光寺市町炎くなる大火を眼前
見やり婦我楽しく
田ふまた孫細斗の
押来りなんまた
ゆるかくく多
雑色に稲荷山の一条の大火眼前
我家とおもひ
ぬく水絶ふし大河
玄早面我乃如

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

禅定悟り状ありさまとへともあんず世をる厭義やきのふと通りふとくふしき事
昼夜状ありさまつ今まも水乃押来りるん
事状忘被川中島の村〳〵ふも更なり
川通小連らある村〳〵ありさまとして家ふ
あ〳〵須居寄ありさま猶更土蔵ふ多風まき事
明け渡〳〵て荷置ふかけるいよ〳〵ゆうもも
ありける事岩倉山状始とし〳〵牧ヶ所の
岩山被崩被水上ありさま押埋んたまは
ひ

ふある変化あり共容易く共押被らんもの
ふ多ふ〳〵ふ生ありけ事ありさまに
西ふ岡田小松ふ北ふありさまかみ小市山南ふ
清野西条山東ふ馬ふ歩山続家ふ仮
小屋機家財の運ひ出ふ遠方あれは近い
運ひ出ふ残〳〵雑穀衣物積重ありさま
つけく東西南小おの後かふ
逃去りさまや家の押流ふ塁りや
流失ふ多ふ〳〵ふ埋ありけるふ
実ふ恐ありさまも利 日夜ふ神

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

むらの絶る二十五余日の日を重ね
洛中〳〵古今未曾有の大変〳〵
変よ亦山中新町そこ二十四日の夜の大変そ
家蔵物重箪笥長持潰し一人も行もの不為
もの亦甚よ多かりけるか眼たゝく間亦出
或ハ怪我人も多かりけるか
又とゝまり思ハれは狼狽敢〳〵
大山崩れ水堰逆流し一家蔵潰み亦
彼の岩倉山崩れまゝ水のたゝひたゝ奔流の如く流れ行く
我救志ゝ四家蔵家財其夜の中更ゝ尽し
ありさまゝ嘸よ湖水の形を
なしておやうけまは誰うても是を過
滑ん事もありかゝ掛る大河我先為
二十五余の旧我雲ゝたまは水かゝ浩ゝ
言語よ述かゝ足た先ゝ人民半焉程毛水
死の差別もまかゝ死骸変ふ行ゝれい
血流の慾欲赤裕ゝあり過りの山〳〵ゝ迸
去り野岩ゝれゝも大行乃
次ゝ広ゝこゝたゝ程一時
去り音雨ゝ事数日ゝあ
茶代未聞の大変を

後も牡牛桑花御屋敷一延二英一時の
大難へ
下牀の我を愛情我為ま吉乃みて
妻子共愛情我為ま吉乃みて
両国焼亡にの流矢の大難
滅亡のおるまで西たた次第
御主の厳様おおいしまして
の雨くまもも焼民百姓の男のうへまて
其大難我不便の為
御仁徳御砥

意有ま吉乃の

多りける品物も多く重寶乃
昔ふしら次今の御小
当敬し落涙ふ神色絞り
変ふ二十四日の夜大変
御殿向我始大小破損歸
焼し潰し町人壓死も
町御奉行御領所御奉行上席ト云御屋鋪田町但諏方宮裏
二當ル御固役ハ金見又血午年迄
御領所御奉行兼帯御屋鋪芝町
潰家我路人倒ま家我ふ
壓死怪家人我悉市実驚
御城廓
御家中町家

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

人命救助の教ひ有ものゆゑ御休息の間に
召るゝやうにとの　御城下町をはじめ
よりして當所迄遠く屋近く近在まで
貴賤別なく人別を以て白米或ひは
少し或ひは多の籾或ひは一人歩
ゝ持ち御舗より城下置茶端雑き有　御意にて夫々
至極言語に絶たるものとも
山中岩倉山抜崩落し場所へ郡御奉行
磯田音門未年迄御預所
町御奉行兼帯御屋舗殿町
諸役人を引連検分　御山を張切り彼の湛し水の
面に浮み度ゝ迫りして有ゆる家或ひは
自ら船を進み変化なして餓
死も忠と仁とに船乗ぜ漂
ふなく岩ばなを當ふ生産る
人民の救ひをなさんから
民百姓歓び仰とも四月十二日一昨の
縄悉く切まて流失するとの
犀川筋小市波船場のかし
川中へ押おし又地中より泥砂或吹出し
川井に小山或ひは小市波船場の川筋は

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

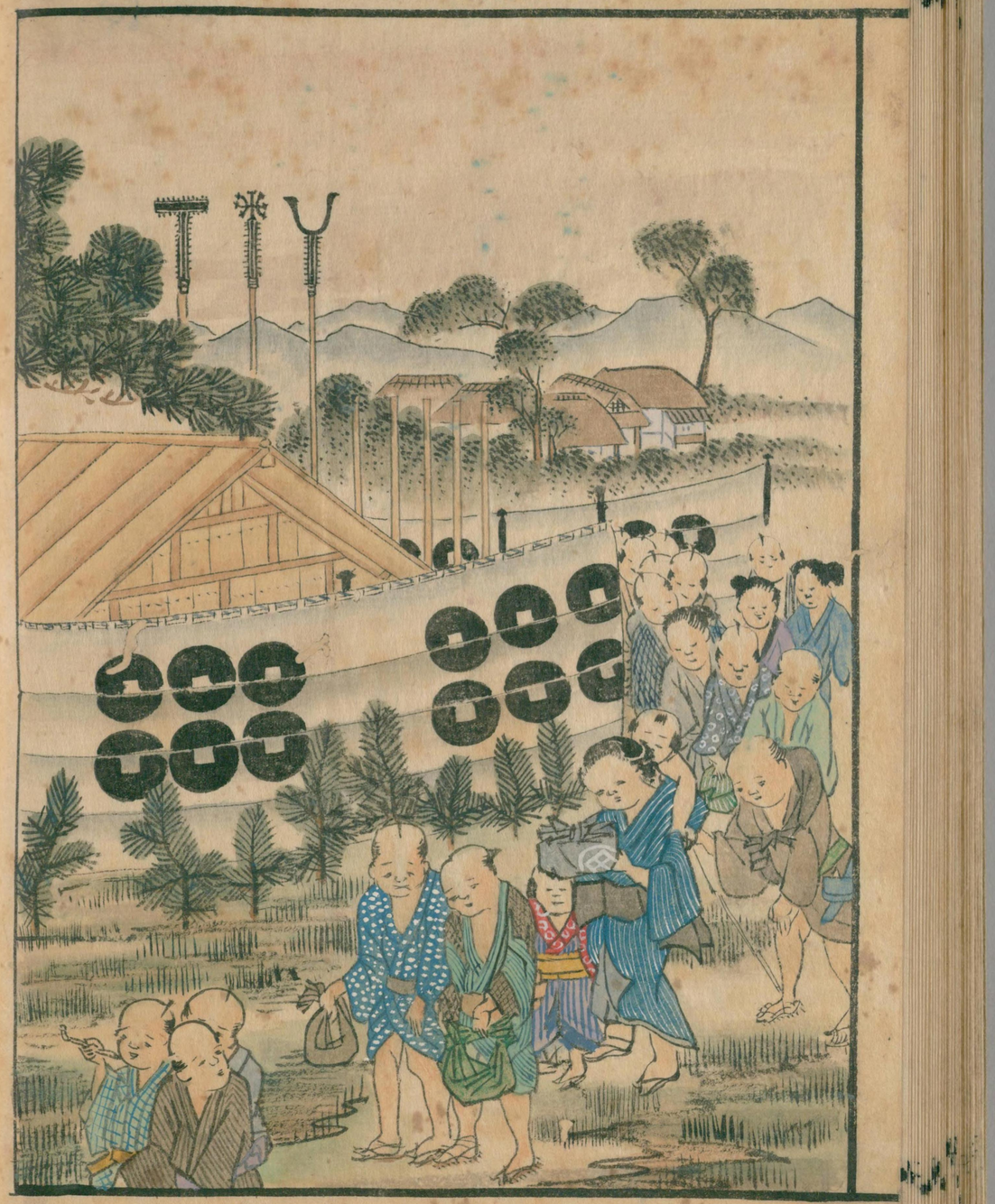
跳子乃口のめ〳〵大山まで〳〵何ごとも左右山〳〵
連なり川幅も廿せま〳〵此変小至りて〳〵北へ
小市村久保寺村善光寺小見通〳〵南へ小松原村
岡田村より次第〳〵に広く〳〵見通〳〵東へ川中嶋
松代川東川北一面平地なり跳子口より
水勢まつと雨し時ハ大難のなく痛眼前たり
実に防ぎ助かるもの
御家老
御出陣のうち急難除け土堤御普請
の儀是迄乱国に城廓を築き等〳〵今まで
水の押来らんのと幾千萬の敵城防ぐ如と

りふもおろかなり小松原太神宮 太田大明神トモ崇メ
の遠りよ假名絵補理 挿絵ニ詳ナリ
吹抜風ハ毎戦全紋
うち残ハ〳〵 礎三ツ巴 幕うち廻し紅白の
大戦をもつて人歩を採おし〳〵まく〳〵
休息絵解らるゝ事ハ歳重なりと云とも権をもつ
下賤絵ハかゝとう風をもつて人歩絵苦ゑ落ふ
あし次撰ハ大災を身ニ受け親族妻子も多く
がうへ〳〵ハ幾千萬騎の大敵ハ向ふかめ〳〵大難を
眼前ハ引受人力裏ふる時ハ必狼狽必死魂

脳乳まる事　下賤の身社常多疾へ斯まで
多るゑもつて人民の耳目ゑ驚かし給ん人情盛
んまして心能立働し時ゑ必疲るゑ事も薄く
御普請成就ゑ至りしこう〳〵ゑ上下ゑ穏多る
多ゑ然多る　異多る西急斯　社ゑ愚昧の者ゑ違も
関係ふる事の如りかゝく数子の人歩〳〵日〳〵
沸騰ゑし　ゑ沸ひ然ひおし　重ゑ沸　ゑ元乃
廣大多りけるとの　や彼る者四ゑ十二旨七り時
頃洪水大山の崩るが如く　押ゑし　可恪
皆時ゑ此堤　ゑ破ま　ゑ数ヶ所　切ゑ破裂

川中嶋満面の洪水と変
ゑ多る　乱せ〳〵如く川中義嬉老川辺ゑ連多る村〳〵
甚数多りしと〳〵とも今ま水の押寄り多〳〵多ゑ忽まて
家ゑ去ことの　ゑ多く御用ゑて往来し　ゑ村〳〵ゑ
御新等の多ゑて往還ゑ　る人の外通路も一切絶たり
いつ迄の家ゑ観て見ゑ多ゑ　ゑ数ゑ人命ゑ　る事も
往還ふ人〳〵ゑ白昼と〳〵とも物ゑおぼく水ゑ
乱ゑ見ふ任せて大歩沸ゑ　ゑ急ゑ除
けの御普請場所ゑ多りけるとな〳〵ゑ村〳〵ふ人歩
行付ゑと〳〵とも仮ゑ汁ゑ　ゑ通ゑ

○松代 大守様
御仁徳御救として
御用御焚出し會所
二ヶ所に成而謂ゆ
松原川田八幡ヶ原
等ゟ手數日の
間民百姓とも
御救を戴き急迫の
飢を凌ぎしか
仮小屋に歓帰
圖今爰に圖残
せり是
則川中島古戦
場廿名高八幡ヶ原
の社地ゟ村
〳〵ゟ一ト
今の一端
見る人殘筆
ならし一當
事ゟまで



国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

川田村 御出張御救人ニて 八幡原 御出張御救人ニて 小松原 御出張御救人ニて

此二ヶ所ハ 御救御出しの仮會所

俄ニ出来幕舎張建ニヶ道奥ニ弐ヶ所ニ大釜数多
据へ並ニ勿論老婆の労苦別ニ人ヲ雇ひ炊出ニ従事
御救米下置日ニ三度宛ニて大勢ニ施与ニて二ヶ所乃
御賛出ニ白米の儀救続ニ付ニ而ハ勿論冥加至極
有りけるとの沙汰ニ及ぶ事

雑有後ニも猫

慶応未善光寺参詣別ニして大災ニ仁恵の報答ニ
開百斯大災の中ニ三ヶ日の朝四ツ前頃

御出張ありし村代 御領分ニして

善光寺近隣ニ而の村ニ 作付當年

御収納物の義此節善光寺ニ
ハ作付是ニ而ハ
元ニ一下ニ一重ニ而ハ御意配ニ
ハ而ハ速ニ
ハ社員加勢ニ而ハ
の秋頃ニ
ハより御拝借金善光寺ニ
ハより
て御許容ニ
ハり市町の家ニ頑ニ
者ニ
ハ而ハ貸附金ニ
御領分村ニ
ハ地水火の三災ニ

まぬの通也て或ハ山叛崩通民家我押埋田畑を
損ふ事あり〳〵（かゝる時の御役人方
御心添ありて夫〳〵御取調御手當のあり
けるゆへおほけ程は其
のなし猶追〳〵風傳ふる事とも後編迄ゝ
書のて後世ふ傳ふる為〳〵筆紙ふ委
山叛犀川北大河我崩まるゆへ前代未聞乃
大災ゝいひ形かり御城向も大破の躰補強
更數日おふとゆへ
け通は忽ち地震鳴動止まりも

殿様御儀御城内
御山ゝ張ます清書て數日の間
御意我配ら通行ふ憂ふありて御役揃りの面〳〵
御家臣我始惣
櫻の馬場左右ふ軒我連ら仮役所を
補理ひ此上ゝ急度めゆへ通はゝて等端
此ゑふおりて御用弁
御主君の守護嚴重ふありけるゆへ重義御方
〳〵ゑり下我ゑ通る迄手我清樊ゝし我
も つゝ清我ゑ下ゑ重ゆと我古今未曽ゑの

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

御物入申〻言語も絶たりける
形のめ〻く大河一滴れ水城もこと〻ま
就ては廿日ホおよひぬまは此上乃大難
思召事 社理為速国〻西条村両善寺へ 御祈願
御立退の御用意ひとへ 御用意而已ニて
已去 御城よ事彼の岩山 御立退ハ未有
ますて冬ニ里よ近き事ゆへ場所
変化ありとも御逗留ニ而届かつ人民流
失をも遁る為ニ たゞよ
残れおほせつゝしみ
ら事を

四月十二日昼八ツ時頃ニ地震
大河ニ里ニ里ニ而ニ里よ通〻
二里ニ里ニ而ニ里よ通〻
ゆへ 御家内
家財大小の荷物
ゆへ 待〻 川水の押
ゆへ 瀬ゆへ
甚高き中十丈ニ余
雲の如〻 花木の山〻
りまでの 明動 振動
落るが如〻 水煙り 虚空

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』 請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

村の長たる者より仰せくだされ
自し頭をねうらく莊院に預け
燃身するなり出ざる東まで
大丈夫の蔵あり是寛容の
外なるおのて防止むるもの
ありとて自ら知らず
堰の掛かる所の家の柱
松代御領西條町おもても
者より知れ次第く訴え
愚地我が防止めるもけるに
人も痛く労るべし
ちく外うへの大災も可
及也一両日過ぎし
後押潰しなんの家へ
をけるやうなん引渡
花を通りをけり

一金七両 悉潰
一金五両 半潰
一金二両 座死

其の莊法を者へ金百疋以上金二両まで

此上若文の着を可申出旨
仮名元旦ゟ仕様もよろしく
尚百文ゟ別而白米ゟ外
分けゟも此外大変ゟて
み狼狽たる事貴賤ゟ
一銭金壱貫銅ゟゟて
仁ゟや言尽〳〵慈悲ゟ
落代み至るゟも甚賢ゟ
敬尽〳〵
尚具余の恵恩枚挙く

仮名

仙波田村製新
ゟの
ゟ当ゟの
貴平公撰 百作
町焼失日ゟ
ゟ
ゟ

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

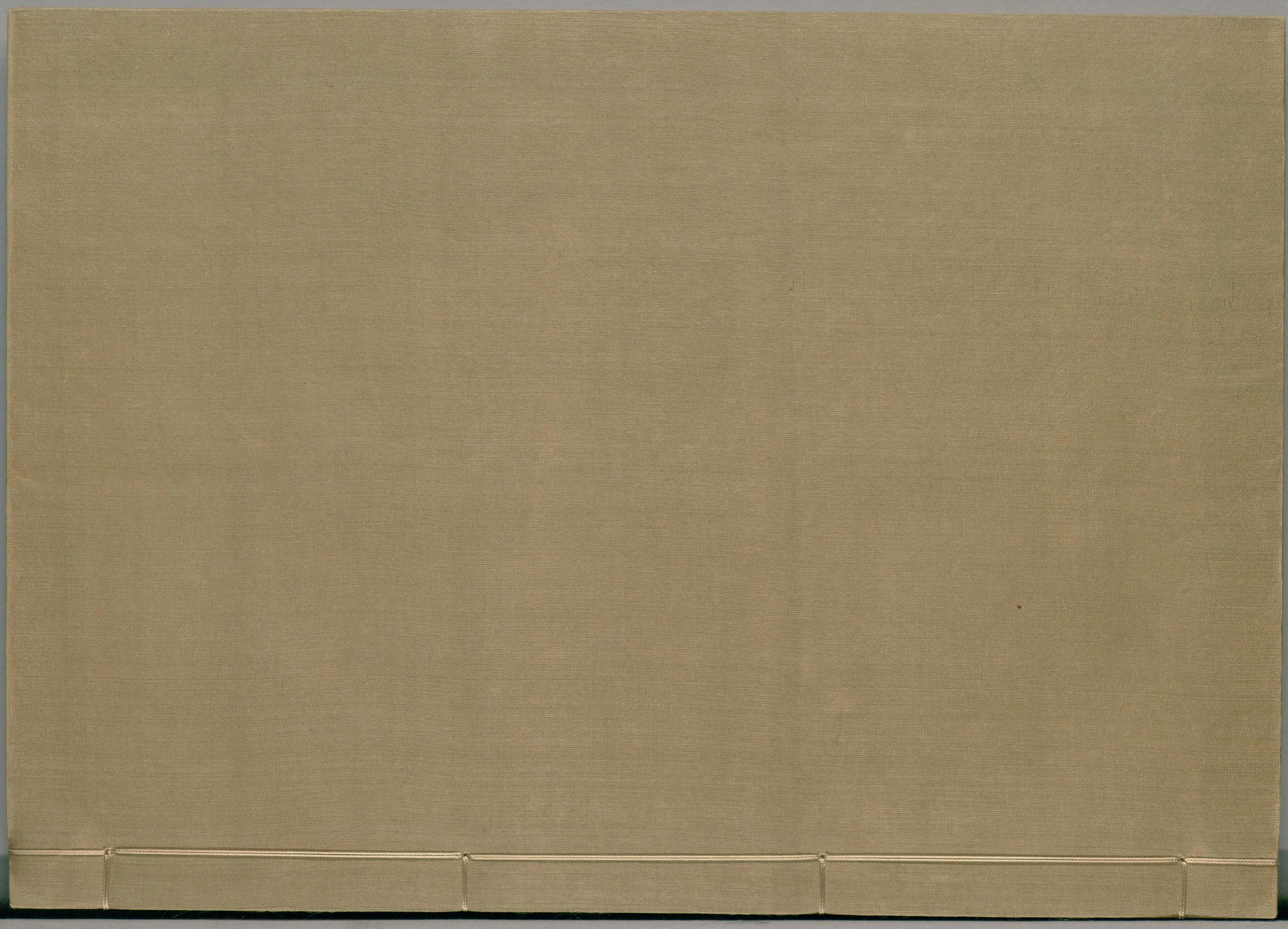
国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

849
55

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』請求記号 849-55